

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月27日

【評価実施概要】

事業所番号	1272400928		
法人名	有限会社ピウ		
事業所名	グループホームピウ八幡		
所在地	〒290-0062 千葉県市原市八幡125-1 (電話) 0436-40-3758		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年3月27日	評価確定日	5月2日

【情報提供票より】(20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤9人, 非常勤9人, 常勤換算11.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	5階建ての	3階 ~	4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 ~ 22,000円	その他	食費39,900, 水道光熱費15,000, 理美容代, おむつ代など	
敷金	無		有りの場合 償却の有無	有(期間:5年償却)・預り証発行
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)			
食材料費	朝食	280 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 1,330 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	9 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	62 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白金整形外科病院, 永野歯科医院, 市原鶴岡病院
---------	--------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR内房線八幡宿駅から、徒歩10分の国道297号線に面した市街地にあるホームである。鉄筋コンクリート5階建てビル3,4階にあり、1,2階はデイサービスを行っている。1階には、リハビリテーション用の器具も揃っており、入居者は必要に応じて、希望により利用している。ビジネスビルを転用した施設であるが、日当たりがよく、また晴れた日には富士山が見られ眺望もよい。3Fデッキには入居者と一緒に植えた草花が咲き、暖かい家庭的な雰囲気がある。看護師が常勤しているため、医療面でも安心できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価終了後すぐに、ミーティングを持ち検討した。口頭だけの申し送りについては、1日1枚の用紙に申し送り事項を書き込み、冷蔵庫に貼り、職員間で共有できるようになった。また、緊急時の対応については、マニュアルを再確認し、AED(自動体外式除細動器)設置の際は、業者による説明会に参加した。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員に自己評価についての説明はしたが、作成については管理者、計画作成担当者が協議し記入した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族や町会長を構成員として、三ヶ月に1度定期的に行っている。行政の参加はなく、会議の意義を考えるなど試行錯誤しながら開催している。2月開催時には、消防署からの参加があり、避難口においてあった物の整理等、施設の実態に合った助言を得られた。今後警察署からの参加も依頼する予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族は運営推進会議のメンバーになっている。家族の面会時には、要望等を聞くようにしている。契約書に苦情、相談窓口を明記してある
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎日の散歩時に、公園などで、犬の散歩などで顔見知りの人と挨拶を交わしたり、近所のファミリ ーレストランの店の人もなじみになり、コミュニケーションがある。町内会に入り、フリーマーケットなどの地域の催し物や運動会等に参加している。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は、「笑顔・優しさ・言葉使い・挨拶」をモットーに、ケアに取り組んでいる。		わかりやすいモットーと共に、今後、地域を意識した理念づくりを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	廊下にも上記のモットーが掲示されており、職員は常に意識するようにしている。日々の介護の中で注意し合い、理念を共有している。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会に参加し、フリーマーケット等の催しに参加している。地域の祭りや、運動会にも参加し、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価結果については、職員全体でミーティングを開き、改善点を明確にしている。今回の自己評価については、管理者を中心に作成した。		ケアに携わる職員全員で自己評価し、評価票を作成することが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回定期的に開催している。2月には消防署の参加が得られ、施設の避難口について助言を受け、避難口を整備した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護受給者が多く、市担当者と日常的に連絡をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回近況報告、お小遣い帳のコピーを送付している。3ヶ月に1度、カラーの写真入りのホーム便りを送付している。家族の面会時には、入居者の様子を話している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書の苦情・相談窓口が明記されている。家族の面会時には要望・意見を聞くようにしている。家族会はない。		面会に来られない家族などに対応するため、家族の本音を把握し、密接な協力関係を保つためにも家族アンケートの実施などを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット全体で職員の勤務ローテーションを組んでいる。その中で、入居者との信頼関係を築く為、職員の固定化に努めている。異動時には、十分な引継ぎに留意している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に職員を参加させており、研修後には報告書が作成され、資料は職員間で共有されている。新人の採用はこの1年半ほどなく、研修計画は特にない。職員の段階に応じての研修の計画にはいたっていないが、毎日のケア業務を通して、職員の育成がされている。		例えばプライバシーの保護やケアの理念などについては、最低年に1度はミーティング等の機会を通して、ベテラン職員も含め再確認することが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市原市内の事業者が参加する中核地域生活支援センター主催の会議に出席している。また市内5ヶ所あるグループホームとは相互に見学したり、情報交換している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前見学や体験入居、職員との面談により、ホームに馴染むようにしている。リビングがこじんまりしており、家庭的な温かい雰囲気があり、新しい入居者が馴染みやすいと感じられる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者は、職員と一緒に洗濯物干しや、野菜の調理、草花の世話など得意分野を生かし暮らしている。男性入居者もゴミだしなど担当している。また、職員は入居者から野菜の切り方や太巻き作りなど教わりながら料理をつくる機会も多い。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前には家族に生活歴や趣味などを記載してもらい、家族のいない入居者には本人や必要な関係者から希望等を聴いている。また、意思疎通が困難な場合には、日々のかかわりの中で、職員が入居者の希望を理解するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメント時に本人や家族からケアへの要望を聴いている。入居後2週間ほど入居者の状態が観察された後、職員間で話し合いがされ、総合的な意見を基に介護計画書が作成されている。出来上がった介護計画書は家族に説明がされ、同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直し前には職員間で話し合いの場が持たれ、その情報と本人や家族からの要望等を基に新しい介護計画が作成される。通常は半年に1度の見直しがされているが、入居者に変化が見られる場合などは随時見直しが行われている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ビル内の1,2Fに併設されているデイサービスとの連携がとられている。入居者の希望があれば、デイサービスを利用することが可能である。また、ホームの生活介護の部分でも、入居者個人の要望(買物、散髪など)にも柔軟に対応がされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院である白金整形外科病院の看護師が週4日ホームを訪問し、入居者の健康管理がされている。また、本人や家族の希望するかかりつけ医への通院も可能であり、その際の送迎の支援もされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までは重度化や終末期の入居者は家族が病院への転送を希望していたため、ホームでの事例は無い。しかし、今後の対応のためにホームとしての終末期の方針は文書化されており、協力病院との体制も整えられている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対するプライバシーの配慮については職員間で周知されている。例えば、排泄や入浴介助時にはプライバシーに配慮しつつも、入居者への安全性を考え職員の見守りがされている。入居者の個人記録物等は所定の場所で管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の日課にとらわれず入居者のペース、能力に合わせて1日が過ごされている。また、職員は声かけをし入居者の希望を聞くように心がけている。買物など個人的な支援にもできる限り対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者への委託であるが、入居者の好みを反映して献立がたてられている。月に1度、入居者の希望するメニューの日がある。2ヶ月に1度、入居者からアンケートをとり、希望にあわせて外食を計画する。食事の準備や片づけも職員と入居者共に行い、家庭的な雰囲気が感じられる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	デイサービスと1,2Fの浴場を共用している関係で、入居者の入浴時間帯は午後になるが、3,4Fには個室浴槽も有り、希望にそって入浴ができるよう配慮がされている。また、入浴回数も週3回が基本となっているが、個人の希望により対応されている。共用浴場は自然の光が入り、とても明るい設計となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味等の情報をもとに、入居者一人ひとりが楽しめるよう支援している。料理、掃除の手伝いやごみ捨てなどの役割により、力を発揮できる場が作られている。何も興味を示さない入居者に対しては、職員が興味のあるようなことを提示して、その反応から必要な支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物、散髪など入居者の希望に応じて支援がされている。また、近隣の観光スポットや季節の行事(お花見や紅葉狩りなど)にあわせての外出、運動会など地域の行事への参加の機会もつくられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には日中は鍵は掛けられていない。天候のいい日などは3Fのデッキへの通路となっている非常階段へのドアも鍵が掛けられていないが、入居者の安全面を考慮して必要に応じて、ドアセンサーやのれんに鈴が付けられるなどの事故防止の工夫がされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回消防署の協力のもと避難訓練が行われている。災害時の連絡体制は文書化され、職員間で周知されている。また、散歩の際に地域の人へ声かけをし、災害時の協力が得られる関係づくりに努めている。近くの薬局への援助依頼はすでにされており、隣接するストアへの協力も検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病など食事制限のある入居者もいる為に、量は職員によって決められており、個人記録がある。水分補給は食事時だけでなく、居間にポットが2つ置いてあり入居者は自由にいつでも飲むことができる。午前中のおやつは入居者の自由であり、午後はホームが用意したおやつが出されている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と台所のスペースは両サイドから自然の光が入る設計になっておりとても明るい印象がある。壁には入居者が完成させたジグソーパズルや行事に合わせてとられた写真なども飾られている。3Fのデッキには入居者と共に植えられた花があり季節感が感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は入居者の使い慣れた家具などを持ち込むことが可能である。家族の写真、花など個人の趣味に合わせて自由に居室が飾られている。		